

論文内容要旨

論文題目

がんサバイバーおよび介護者の unmet needs に背景因子が及ぼす影響

責任講座：内科学第二講座臨床腫瘍学分野

氏 名： 渡邊 要

【内容要旨】(1,200 字以内)

背景：

がんサバイバー（がんに罹患した経験のある者）、およびその介護者は、医学的に解決することが困難な、多様な unmet needs を抱えている可能性がある。過去の研究では、がんサバイバー個々人の持つ背景と彼らの unmet needs との間に関連性があることが示唆されている。今回、特定の種類の unmet needs に対して個々人の持つ背景が及ぼす影響を明らかにするために、大規模な解析を実施した。

方法：

我々は混合研究アプローチを用い、2006 年 10 月から 2014 年 5 月まで神奈川県立がんセンター臨床研究所が提供した、がんサバイバーや介護者を中心とした電話相談サービスへの初回相談者の記録を分析した。質的アプローチでは、各相談で言及された unmet needs を抽出し、特定のニーズのテーマに分類する形式で、量的アプローチは各テーマのニーズが発生する頻度と関連する相談者の背景因子との間の多変量解析で構成された。

結果：

調査期間中に合計 13,962 のカウンセリングケースが得られ、これらのうち、1,938 件が分析の対象となった。Unmet needs は概ね過去の研究と同様に 16 のテーマに分類された。各ケースの有する unmet needs の平均数は 1.58（標準偏差= 0.86）であった。多変量解析では、相談者の性別、相談者の年齢、治療コース、症状の有無などの項目内比較で、各テーマの発生頻度に有意差を認めた。症状のあるサバイバーは、症状のないサバイバーよりも「physical」および「emotions/mental health」のニーズが目立ち、「education/information」、「resources」、および「cure」のニーズが少なかった。一方でサバイバーに限った解析では、がんの種類によって unmet needs に有意差はみられなかった。

結論：

この大規模な研究は、個々の持つ背景ががんサバイバーと彼らの介護者の unmet needs に関連していることを示した。将来的には個々の背景因子より、より個別化された患者サポートの提供体制が求められるであろう。

令和2年 1月 15日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名：渡邊 要

論文題目：がんサバイバーおよび介護者の unmet needs に背景因子が及ぼす影響

審査委員：主審査委員 北中 千史

副審査委員 村上 正泰

副審査委員 上野 義之

審査終了日： 令和2年 1月 15日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

がんサバイバーおよびその介護者は医学的解決が困難で多様な unmet needs を抱えている可能性がある。過去の研究では、がんサバイバー各人の持つ背景と unmet needs との間に関連性があることが示唆されている。今回、申請者は特定の種類の unmet needs に対して各人の持つ背景が及ぼす影響を明らかにするため、がんサバイバーや介護者を主な対象とした電話相談サービスの相談記録について大規模な解析を実施した。

具体的には2006年10月から2014年5月まで神奈川県立がんセンター臨床研究所が提供した、がんに関する電話相談サービスへの初回相談者の記録を分析した。期間中に行われた計13,962件のカウンセリングからランダムに3,000件をサンプリングし、重複等を除外することで1,938件を分析対象とした。分析に際しては、まず各相談で言及された unmet needs を抽出し、それぞれを特定テーマへと分類することを試みた。その上で各テーマのニーズの発生頻度を明らかにし、各テーマのニーズに関連する相談者の背景因子を多変量解析により検討した。

結果として、unmet needs は概ね過去の研究と同様に16のテーマに分類することができた。各ケースの有する unmet needs の平均数は1.58（標準偏差=0.86）であった。多変量解析では相談者の性別、相談者の年齢、治療コース、症状の有無などの項目内比較で各テーマの発生頻度に有意差を認めた。症状のあるサバイバーでは、症状のないサバイバーよりも「physical」および「emotions/mental health」等の特定テーマに属するニーズが多く、「education/information」、「resources」、および「cure」等の特定テーマに属するニーズが少なかった。一方でサバイバーに限った解析では、がんの種類によって unmet needs に有意差はみられなかった。

本研究はがんサバイバーや介護者の unmet needs を検討する研究であるが、従来のような（調査対象が受け身となる）聞き取り形式を主体とする調査結果ではなく、調査対象者の主体性・自発性を要する電話相談の結果を解析している点で先例のない独自アプローチとなっており、現存のがん相談システムの中で他所では相談・解決しにくい・できない unmet needs によりフォーカスした知見が得られている可能性がある点で貴重な研究と考えられる。そしてこのような調査の必要性は、従来の研究から指摘されていた「がん種と unmet needs の関連」が認められなかったという予想外な結果からも示唆される。

以上より本審査委員会は本研究が学位（医学）の授与に値するものと判定する。ただし学位論文の記載に一部修正を要する箇所が明らかになったため、改訂学位論文の提出を学位授与の前提とした。

（1, 200字以内）